



安全衛生教育分科会

会場 みやこめっせ 〔京都市左京区岡崎成勝寺町9-1〕

交通 京都市営地下鉄東西線「東山駅」1番出口より徒歩8分

10月24日(木) プログラム(9:00開場)

9:30

**① 安全衛生教育の展開
～体験・体感型教育の推進～**

福田金属箔粉工業(株)
総務部 安全衛生グループ

中山 義久

当社は1998年の特別安全管理指導事業場に指定されたことを受け、安全衛生活動強化のため2000年に安全衛生グループが発足。近年の取り組みのうち「安全体感教育」、「ドライブレコーダーによる交通安全教育」、「救命講習」について有効な教育となるよう「創意工夫」してきた取り組みを紹介する。

9:50

**② 所属長と新人のコミュニケーションを促進
し双方に刺激を与える5S手法の提案**

シンフォニアテクノロジー(株) 伊勢製作所
伊勢総務部 総務グループ

池山 佑斗

5S活動のマンネリ化打破を考え、所属長と新人による「5S選手権」を開催した。マンツーマンとなって現場を巡視しながら5Sの徹底状況を調査し、改善に取り組んだ。互いのコミュニケーションを促進した結果、所属長と新人の双方に刺激を与え、5Sに対する取り組みが強化された。

10:10

**③ 安全の先生を育てる取り組み
～マスタートレーナ制度の効果について～**

東京エレクトロン九州(株) 合志事業所
生産本部 製造部 製造管理グループ

濱田 将典

受講者満足度はあらゆる教育で注目されるポイントである。安全衛生教育においても形骸化やマンネリ化を防ぐ必要がある。そこで、マスタートレーナ制度を活用することで、教育水準の維持と向上を図っている。併せて次世代の安全衛生教育を担うキーパーソンを育成する取り組みを紹介する。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

32

次ページにつづく



安全衛生教育分科会

10:40

特別報告

フルハーネス型墜落制止用器具を巡る動向について

(公社)日本保安用品協会 内 日本安全帯研究会
(藤井電気(株)開発部 技術顧問)

井上 均

フルハーネス型墜落制止用器具に関する法令規制の内容、同器具には構造規格が示されていること、同器具を使用する際の留意事項などについて、労働災害防止のための現場目線で解説する。

11:10

4 昨年とは違うプラスワンを目指した安全衛生セミナー・イベント

名古屋西労働基準協会
安全衛生講習担当

伊藤 俊司

安全衛生セミナーやイベントは、労働災害や改正法令の説明、外部講師による講演等、例年同様の型にはまったものでマンネリ感があり、参加者からは「面白みがない」の声があった。そこで事業場の安全活動の取り組み事例紹介等『昨年とは違うプラスワン』がある企画を行った。

11:30

5 京都大学における衛生管理者の役割

京都大学
環境安全保健機構 安全管理部門 准教授

松井 康人

大学における安全管理は、事業場単位というよりは、部局(学部)に依存している。そのため、部局毎に衛生管理者を任命することで、巡視などの通常管理に従事していただいている。環境安全保健機構では、衛生管理者の連絡会を実施することで、文化交流と情報共有を加速させている。

11:50

6 ロープ高所作業における労働災害を防止するための管理者教育の必要性について

(一社)全国ガラス外装クリーニング協会連合会
安全技術教育委員会 副委員長

三苦 茂

ロープ高所作業における労働災害防止のため、改正労働安全衛生規則が施工され、沢山の労働者の方が受講したが、労働災害は減少していない。労働者単独の技量、安全意識のみではなく、管理者、発注者も必要な教育(管理者教育)を受けて、総括的な安全管理をする必要がある。

(12:10 ~ 13:30 昼休み) 13:30

講演 9つの掟であなたの安全衛生・健康教育を磨く～インストラクショナル・デザイン入門～

産業医科大学 産業医実務研修センター
准教授

柴田 喜幸

研修講師を依頼され一生懸命準備して臨んでも、受講者は熟睡、仕事には活かされない、。こんな嘆きをよく耳にするが、いがかだろう。これらは本講演でご紹介するたった9つのコツで改善できる。その源となる知見、インストラクショナル・デザイン(教育設計学)のあらましもご紹介する。

(14:30 ~ 14:40 休憩) 14:40

7 訓練生に興味を持たせる KYT ～訓練生による要素作業フォトシート～

群馬県立太田産業技術専門学校
訓練指導第一係 係長

金指 義仁

当校溶接系訓練コースでは、訓練生の安全衛生教育を、①不安全行動、②不安全状態、③労働衛生の3メソッドに分け、各項目の融合教育としてKYTを実施した。今回、KYTに使用するフォトシートを、訓練生が主体となって作成し訓練に取り入れたので、その効果等について報告する。

15:00

8 RST トレーナーのための新たな能力向上セミナーの取り組み

大阪安全衛生トレーナー交流会
会長

坂上 義満

大阪安全衛生トレーナー交流会は会員の職長教育能力向上を図ることを目的として平成28年度から「職長教育向上セミナー」を開催している。このセミナーは年3回開催し、毎回1章ずつ3名の有志による模擬講習を行い、その内容等について聴講者が意見交換を行う研修会である。

(15:20 ~ 15:30 休憩) 15:30

特別報告 「災害防止の考え方」をいかに伝えるか～新入社員向けリスクアセスメント説明の勘所～

(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
機械システム安全研究グループ 上席研究員

濱島 京子

現代の「安全」はリスクの概念で定義されることから、実務者向けの安全に関する講習等では「リスクアセスメント」に自然と重点が置かれる。しかし、実務経験の少ない労働者への講習では、いくつか注意すべき点がある。本講演では、「問題解決」の考え方を利用した説明方法を紹介する。

16:00

9 「300撲滅活動の一考察」安全意識を身につけさせるためには

(一社)日本自動車工業会
安全衛生部会 Bグループ研究会委員(本田技研工業(株)人事・コーポレートガバナンス本部人事部安全衛生管理課グループリーダー)

山田 和宏

自動車メーカー7社で構成する本研究会は、企業の垣根を越えて、長年にわたり労働災害の撲滅をはじめとする諸活動に取り組んでいる。今回のテーマは新入社員教育に関わる講師並びに受講者アンケート結果に基づき、安全意識を効果的に身につける方法を研究した結果を発表する。

16:20



安全衛生教育分科会

16:20

10 類似災害防止への取り組み ～危険感受性向上教育の実施～

本田技研工業(株) 二輪事業本部
総務人事管理部 安全衛生・CG課 主任

柏原 裕二

二輪車研究開発において過去10年の類似災害事例から、危険感受性向上の為のカリキュラムを構築し、教育ルームを設立した。ギャチェーン巻き込まれ災害の再発を受け災害状況により近く臨場感のある体感機を制作し導入した。危険感受性向上のカリキュラムと体感機での教育を紹介する。

16:40

11 安全感度向上活動を主体とした、内面 研磨作業のリスク低減取り組み

日本製鉄(株) 鋼管事業部 尼崎製造所
製造部 鍛造管工場 品質・工程課

大嶺 雄司

内面研磨作業はベテランが活躍するポジションだったが、年齢構成が変わる中で、内面研磨作業に新人が配置された。ベテランの知識・経験に頼った安全管理を見直す必要があると考え、安全作業手順書の改訂や設備改善等に加えて「作業者各人の安全感度を高める活動」を主体に取り組んだ。

17:00

10月25日(金) プログラム(9:00開場)

9:30

12 ヒヤリハットに立脚した包括的な労災 根絶に向けた研究

東海旅客鉄道(株) 静岡支社
静岡運輸区 指導運転士

大橋 徹也

職場の過去のヒヤリハットをRA可能事象とその他の事象に分析し、危険因子を排除すると共に、その他の事象については、教育ツールを見直し、VR動画に体感装置をプラスして労災を疑似体験させた。これらにより、職場全体の知識・意識を高め、労災根絶を目指した研究である。

9:50

13 教員養成大学における安全衛生活動 を活かした学生向けの安全衛生教育

(大)愛知教育大学
保健体育講座 准教授

榊原 洋子

教員養成大学は単科大学だが、全教科の教員を養成する。そのため、安全衛生活動の対象は、外傷、有害物、騒音、暑熱、放射線、VDT、疲労など幅広い。本報告の目的は、愛知教育大学における安全衛生活動の経験を活用した学生教育の実践を紹介し、今後の展開を論ずることである。

10:10

14 衛生管理者や産業保健スタッフの実務力 と1次予防醸成のステップアップ研修会

日本産業衛生学会関東地方会 衛生管理者の集う会
代表

對木 博一

高齢化も更に進み、ストレスも多様化する中で、産業保健の強化が法制化された。企業は生産性と健康のバランスを産業医と衛生管理者等が連携し労務管理までも含め解決する。当会では衛生管理者等の実務力を醸成するべく、ケースディスカッションの多面的な研修会を展開中である。

(10:30～10:40 休憩) 10:40

15 安全講習会を企画立案し4年間かけて年々 プログラムを拡充してきた事例の紹介

有楽製菓(株) 豊橋夢工場
業務課 主任

川崎 領

KYT4R法の演習しかなかった安全講習会を4年かけて拡充して、食品工場として必要な安全衛生、HACCP、カイゼン、自主保全の教育機関として整備した。労災の減少は期待した成果であるが、クレームの減少や組織の活性化といった思いがけない二次的な効果が発生した事例を示す。

11:00

16 新入社員安全教育の充実に向けた取 組みについて

(株)ユアテック
電力本部 配電部 安全・人財育成グループ 副長

佐藤 謙一

作業の安全を確保するためには、安全の確保を実践できる人を育てることが肝要であり、配電工事に従事する新入社員への教育は、非常に重要な位置づけと捉えている。弊社配電部門では、安全で確実な仕事を習得させながら、自信と誇りを持って業務に取り組む環境の基盤を構築している。

11:20

17 労働災害根絶を目指し「自ら学び、行動 する」社員の育成

(株)関西新幹線サービック
人事部研修室 主任

津田 一浩

社員数約1200名で50歳以上が半数を占める当社の問題は労働災害である。そこで事故や労働災害を疑似体験し、ルールが決められた背景やルール順守の重要性を理解し、事故防止意識を高める体感研修を実施している。身体機能測定や座談会形式で行うなど工夫を重ね3順目を迎える。

11:40



安全衛生教育分科会

11:40

18 ゲームで気づかせる安全意識

ニチハ(株)
安全推進室長

朱宮 裕子

新卒採用の新人研修で行う安全教育では、過去の災害事例を多く紹介しているが、どうしても他人事として聞かれがちであった。他部署による研修も多いなかで、安全の研修を印象づけるべく、ゲームを通じて自分の中にも危ない要素があることに気付いてもらう機会とした。

(12:00～13:00 昼休み) 13:00

特別報告

多様化する社会に対応する新しい安全標識の開発～見える化の重要性と安全標識の役割～

(一社)日本標識工業会
会長

中野 豊

高齢者、派遣・パートタイム、外国人といった多様な労働者への教育には課題も多く、こうした職場は標識や表示による「見える化」が重要である。外国語表記はもとより、高齢者には見やすく、経験が浅い労働者には理解しやすくといった、誰にも瞬時に意味が伝わる標識の開発について報告する。

13:30

19 作業スキル可視化と危険への感受性向上による現場作業者の意識改革に向けた取り組み

(株)NTT 東日本-関信越 群馬支店
設備部 群馬サービスセンタ アクセス推進担当

星野 幸男

平成27年度より基礎体力の強化と、応用力・対応力の強化を基本コンセプトとした関信越風土改革に取り組んでいる。作業現場での安全を確保するには、刻々と変化する作業に必要なスキルの可視化と現場作業者のKY活動浸透に向けた社内講師育成の取り組みを紹介する。

13:50

20 全従業員向け体験型教育・考える教育で災害ゼロを維持継続

三菱電機(株) 京都製作所
総務部 総務課 総務課長

櫻田 力蔵

従来の基礎的安全教育は紙面を用いた説明重視型であったが、受講者へより一層理解を深めてもらうことを目的に教育方法の全面見直しを行った。毎年一回全従業員受講を必須とし、基礎的教育および不安全状態を自ら抽出する「考える教育」を導入し、災害ゼロ継続を目指す。

(14:10～14:20 休憩) 14:20

21 企業や地域社会と協働する学校のアクティブ・ラーニングにおける安全教育の提案

東京都市大学
教育開発機構

伊藤 通子

文部科学省は、新学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」を掲げ、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング=AL)を推進している。企業や地域社会等の教室外でALを実践するには、従来にも増して安全が重視される。韓国等の事例紹介と共に、新しい安全教育を提案する。

14:40

22 職場の危険を察知する能力が向上!～安全活動レベルアップのための全員参加型研修～

(株)島津製作所
モノ作りセンター 管理グループ

榎本 佳奈

若年層に対しては危険感受性の向上を、ベテラン層に対しては慢心の打破を目的に、全員参加による安全研修を実施した。トップ自らも参加し、自分達の職場を題材としたケーススタディや指差し呼称の徹底など2.5日間にわたる実践的研修を通じて、職場の安全文化の向上を実感できた。

15:00

23 全社員が健康であるための取り組みと、関連会社との安全意識共有の活動について

太陽工業(株)
安全管理室 室長

畠田 育典

全社員の腰痛、肩こりをなくそうとラジオ体操に替えてダイナミックストレッチ体操を全社展開している。また施工現場等における安全作業と安全意識向上を目指し、協力会社を交えて和気あいあいと意見交換ができるワールドカフェなるものを開催している。

15:20

24 ビジュアル・ツールを用いた安全活動の活性化

三菱自動車工業(株) 京都製作所
京都工作部 次長

永瀬 晃之

我々の職場では、従来の紙面中心の安全活動から動画データを活用したビジュアル化を推進している。実作業の動画によるKYTを通し、不安全要因を職場内で共有するとともに、改善につなげている。また、抽出されたポイントを動画に反映し、新人教育等で動く教材としても活用している。

15:40